

みんなで話そう！学ぼう！

核ゴミと北海道の未来

2021.9.17 原発やめよう！登別の会 宮尾正大

目次

はじめに	1
泊原発の今	1
泊再稼働はペイするのか？	2
北海道の核のゴミは？	3
北海道の反原発運動	4
「みんなで話そう！学ぼう！ 核ゴミと北海道の未来ツアー at 寿都」	4
パネルトークとワークショップ	4
テーマ別講座	5
エコチェーンバー効果	6

2020/3/6	活断層 北電 追加資料で活断層否定
2020/9/11	規制委、泊で調査開始
2021/2/13	規制委、北電の主張了承
2021/7/2	泊原発敷地内の断層 活断層ではない
2021/7/7	泊再稼働 ハードル 敷地外の地震、津波。規制委 安全性に厳格、北電 費用抑制狙う
21/7/30	原子力規制委 積丹沖活断層の審査継続

はじめに

コロナの猛威に翻弄される今日この頃ですが、そんな影に隠れるように北海道に原発の影がまた顔を出してきました。泊原発の再稼働へ向けた動きと、核ゴミ最終処分地への立候補です。福島原発事故から10年が経過し、原発への拒否意識もこのままでは次第に薄れて行き兼ねません。

そこで北海道の置かれている状況を今一度考え、これに対してどのような活動が北海道で行われているかを考えてみましょう。「みんなで話そう！学ぼう！核のゴミと北海道の未来」を。

泊原発の今

では、泊原発の現状はどうなっているのでしょうか。簡単にまとめてみます。

北電の9年間の荒唐無稽な活断層の否定の後、ちゃぶ台返しの再申請で、原子力規制委員会は2月13日に北電の主張を認めました。断層の上に堆積していた地層が12万5千年以前の古い地層であるという北電の主張が認められたのです。それまで止まっていた審査が動き出してしまいました。

ではこれで直ちに泊原発が再稼働するのでしょうか。北電には残念なことです。そうはいきません。活断層否定が認められても、再稼働するためには、地震対策の規模を決める基準地震動と、津波を防ぐ防潮堤の高さを決めるための基準津波を決めなければなりません。もちろん北電が勝手に決めるわけにはいきません、「科学的に」規制委の地震専門家が納得できる数値を出さなければならない

のです。

泊原発の現在の基準地震動は、とても低い 620 ガルという値です。この値は甘い北電の断層想定が見直され 2015 年に 550 ガル¹から引き上げられたばかりの値です。

しかしこれだけでは済みそうもありません。積丹半島は西側が隆起しています。積丹沖にはこれを引き起こした海底活断層の存在が推定されています。

さらに 2019 年に規制委員会は「未知の活断層」をめぐる対策強化を原発に求めることにしました。仮に今後の審査で活断層でないと決まっても、そこから基準地震動を算出して了承される必要があります。そして初めて耐震工事設計ができるようになり、それが合格してようやく耐震工事が始められるのです。

基準津波も大変です。基準地震動を算出した地震から発生する津波を想定して「基準津波」を算出し、それを基に防潮堤を設計しなければなりません。今ある防潮堤は地震の揺れによる液状化現象で倒壊することが指摘されています。作り直す必要があるのです。その工事も「基準津波」が確定してから初めて設計できるのです。審査がつつがなく進めば数年以内に確定できるとの話もありますが、規制委幹部は「北電は審査のスケジュールを守った試しがないので、先は見通せない」と話しています。「基準地震動」「未知の活断層」「基準津波」の対策費用はどれ程かかるのでしょうか？防潮堤建て替えだけでも北電は総額で 2 千億円台半ばと想定しています。

泊再稼働はペイするのか？

泊原発の再稼働のスケジュールは遅れそうです。それを見越してでしょうか、北電は原発の 40 年運転の延長を考え始めたようです。

20/6/26	泊原発 60 年間運転検討
20/7/29	運転 20 年延長危険「ゼロではない」北電認める
21/7/31	北電社長 泊 1、2 号機 60 年運転に「慎重判断」

まだ再稼働の目処も立っていないのになぜ？と思われそうですが、目処が立たないから？でしょうか。

では、延長しても原発はペイするのでしょうか。なぜ 1、2 号機は慎重判断になったのか。考えて見ましょう。

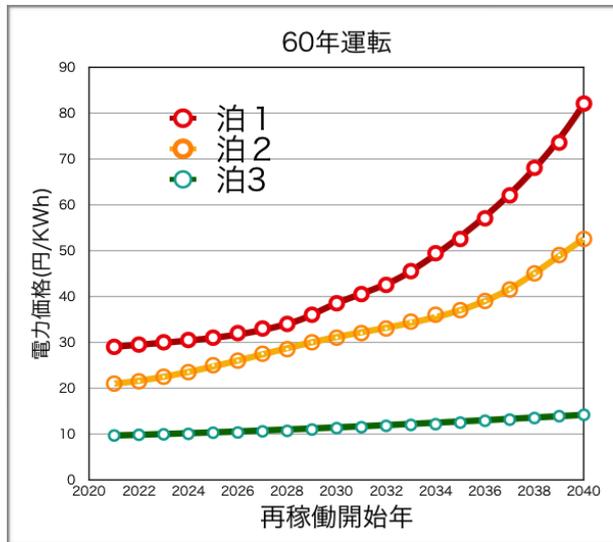
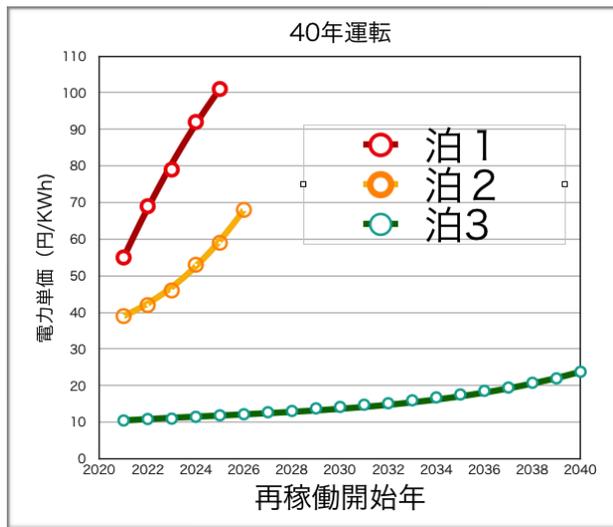
原子炉の運転寿命は 40 年と法律で定められています。さらに安全対策を行い、延長を認められる、とさらに 20 年間延長できます。再稼働が認められても泊原発は 40 年、延長が認められても 60 年の寿命が来れば廃炉になります。

CCNE 連続オンライン企画「原発ゼロ社会への道」²で、大島先生が原発のコストを報告していました。この中で浜岡原発の再稼働を行った時の発電コストが載っています。泊原発が 2011 年から再稼働した時の稼働率による発電コストのデータです。このデータをもとに泊原発の発電コストを計算して見ました。算出の仮定は実際の発電にかかる経費を出す為に原発の建設費はゼロとします。運転保守費と燃料費、それに 2016 年 12 月に 21 兆円と算出された社会的費用（大島氏の資料より）を加えたものです。コストは稼働率により大きく変わります。

¹ 断層カッターと異名を持つ御用学者が見積もった想定

² http://www.ccnejapan.com/wp-content/20210705CCNE_Oshima.pdf

す。原発が何事もなく運転できるであろう
80%を仮定しています。³



再稼働開始が遅れば、残された稼働年数が減り、少ない時間に経費を回収するためにコストは上昇します。今年直ちに再稼働しても1、2号機は1 kWh 発電する経費は60円/40円/kWhととても採算の取れるものではなく、かろうじて3号機のみが採算ラインに乗るだけです。60年延長しても1、2号機の再稼働に残されている時間は少なく、3号機のみが残されているのが北電の現実です。これが北電社長の『泊1、2号機60年運転に「慎重判断」』発言の真

³ 保守費は稼働していなくとも掛かります。しかし再稼働開始が遅れた間に消耗する燃料費を過剰見積っています。

相です。

北海道の核のゴミは？

次に核のごみについてまとめて見ましょう。

20/12/15	古平、核抜き意見書案
20/12/15	島牧村議会、核ごみ持ち込み拒否条例可決
20/12/15	島牧洋上風力協離脱へ
20/12/17	核ごみ調査交付金拒否へ 北海道と寿都隣接の3町村
21/3/16	黒松内町で核ごみ拒否条例成立
21/3/17	仁木町議会 核ごみ反対意見書可決
21/6/17	核ごみ処分場道内設置拒否 積丹町議会が意見書案可決
21/7/21	積丹町は交付金配分受けず

去年の8月13日から始まった最終処分地立候補は、周辺市町村との分断を作り出しました。寿都町では町内の人の分断まで引き起こしてしまいました。

寿都町長は風力発電を誘致するために「肌感覚」で核のゴミ処理場誘致を選択したと自称しています。この目論見は、立候補が引き起こした周辺自治体との軋轢で雲散霧消しました。

寿都町が狙っていた風力発電の重点地区選定は、寿都町が考えていた規模と比べてはるかに大規模な構想です。1自治体だけが単独で行えるような代物ではありません。地域自治体の合意協働とゼネコンをはじめとする大企業を巻き込んだ巨大構想です。広く地域自治体に渡る共同がなくては実現できません。でも起こったのは周辺自治体からの反発包囲網でした。狙いの風力発電も、先進自治体の島牧村の協議会脱退

と言う致命的な反発を招いてしまったのです。



周辺自治体の反対包囲網

北海道の反原発運動

青天霹靂、降って湧いたような寿都町と神恵内村の核ゴミ最終処分地立候補を受け、それまで活動していた道内の反原発運動、泊原発反対運動、幌延反対運動、平和運動団体は、今年2月16日「核ゴミ問題を考える北海道連絡会議」を設立しました。「北海道に核ゴミを持ち込ませない」という一点を共通の目的とし、各団体の活動結果を共有します。⁴

しかし風雲急を告げる NUMO と 2 町村の活動を、ただ座して待つ訳にも行きません。会として学習、啓蒙活動を行うことになりました。そしてその最初の会が寿都町で7月10日に行われたのです。その会は、「みんなで話そう！学ぼう！核ゴミと北海道の未来ツアー at 寿都」。

ちなみにツアーは今後道内各地で次々

に開催する予定でしたが、残念ながらコロナ蔓延で遅れているのが実情です。しかし待つて入られません。嵐にも負けずコロナにも負けず、ミニ学習会を2町村包囲自治体で開催するよう企画中です。

「みんなで話そう！学ぼう！核ゴミと北海道の未来ツアー at 寿都」

第1回の学習会は、方針として、「現地活動も」「単なる反対集会にはしない、できれば反対意見も」として、立候補地の



寿都で開催されました。主催：核ゴミ考北海道会議、共催：子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会、目的：核ゴミ情報共有、論議の機会創設、多様な意見の対話交換です。方針は参加者の自由な意見交換の場を作り、「入りやすく・参加しやすい」対話を実現して、偏らない意見交換と多様な人の参加の場の創設を目指しました。

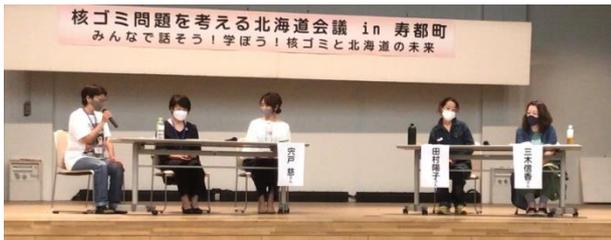
パネルトークとワークショップ

第1日目は14～16時にパネルトーク「女性たちが語り合う核ごみ問題と北海道の未来」です。それに続いて16:30～18:30ワークショップ「話さる会ーみんなで話そう核ゴミと寿都町の未来ー」が開かれました。

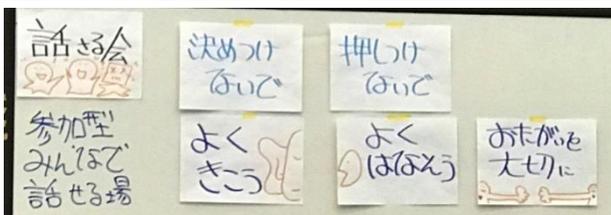
パネルトーク「女性たちが語り合う核ごみ

⁴ 詳しくはホームページ、<https://h-nuclear-waste-problem.net/>を参照

問題と北海道の未来」はファシリテート&コメンテーターとして核ゴミ問題を考える北海道会議の東田秀美さん（NPO 法人旧小熊邸倶楽部代表）と本田優子さん（札幌大学）、パネリストとして宍戸慈さん（北海道子育て世代会議）、田村陽子さん（蘭越町議）、三木信香さん（子供たちに核のゴミのない寿都を！町民の会）で、女性から見た寿都の核ごみ立候補の経過などを紹介されました。



後半は、30分の休憩の後6つのグループに分かれてワークショップが開かれました。ユニークなのはここからです。各グループに別れるのに先立って、ファシリテーターから話し合いの注意があります。話をするときには「決めつけない」「押し付けない」、人の話は「よく聞き」「お互いを大切に」しようなど。話し合いの基本的なことですが改めて聴くととても大切に忘れがちなことです。

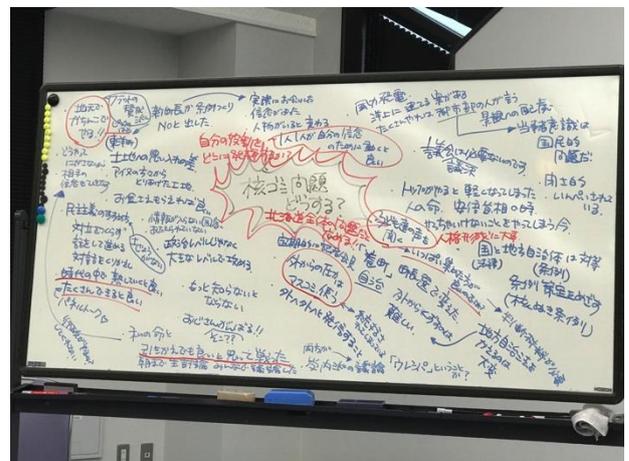


口の潤滑剤注入として対話のトレーニングが行われました。参加者の居住地を市内、近隣、以遠であることをグーチョキパーの挙手で見せ合い、三人ずつのグループに分けて1分間話し合います。これをメン

バーを入れ替え2度行い、口をほぐしてからグループに別れました。

6つのグループは、(1)のんびりチーム（ちょっとのんびりゆっくり話したい）、(2)モヤモヤチーム（引っかかっているけど何かモヤモヤしているので話そう）、(3)キラキラチーム（キラキラが気に入ったら）、(4)もぐもぐチーム（お菓子を食べながら話そう）、(5)ガチンコチーム（話したらない人集まれ、ガンガン話そう）、(6)テクテクチーム（町歩き）、の各チームです。別れて話し合います。

私が参加したのはガチンコチームでした。寿都で反対運動を行っている方の話を聞き、それについて話し合いました。話はその場で白板に書き出しながら進行し、話が終わった後には問題のある程度の整理が出来上がるという手法でした。



後で聞いたことでは、モヤモヤチームでも同じような話題になったそうです。

テーマ別講座

2日目のワークショップは2本立て2回、4テーマで行われました。前半は『高レベル放射性廃棄物の地層処分』のテーマで NUMO が話します。『原発と核ごみ問題』のテーマは川原氏が話されました。私は NUMO を聞きました。注目は口頭での質

問を許さず、A5 用紙にマジックで質問を随時に書いて集め、白板に張り出す方式です。張り出しは「専門的な質問」、「基本的な質問」、「意見」に分けてその場で掲示します。NUMO の話が始まる前にも質問は次々と提出され、ファシリテーターがそれを白板に読みながら張り出しました。その後 NUMO が話始めました。

NUMO の話す間も質問がどんどん提出されます。それは読まずにその場で張り出されます。

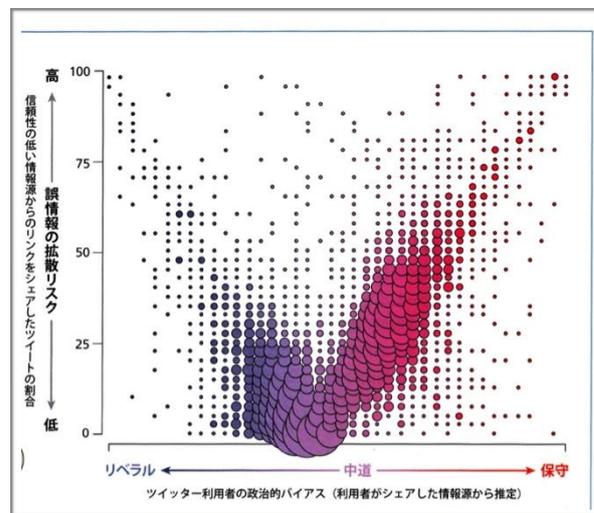
話が終わった後質問は聴衆が直接行わず、掲示された質問をファシリテーターが選び、ある程度まとめて NUMO がそれに応えるという形で進行しました。長々だらだらと意見を主張する質問を排除する方法として見習っても良いと思います。終了後 NUMO への直接の質問が 20 分ほどでき、質問を貼った白板も掲示されてフリーで掲示されました。その場で答えられなかった質問は、後日 NUMO から回答するとのことです。

後半も 2 つのセッションに分かれて開かれました。一つが小田清さん（北海学園大学名誉教授）の『持続可能な地域作りと核ゴミ問題』、今一つが岡村聡さん（北海道総合地質センター）の『寿都町の地層と核ゴミ問題』です。私は『寿都町の地層と核ゴミ問題』を聞きました。

エコーチェンバー効果

学習会に参加して強く感じたことは、会の方針でもある単なる反対集会にはしないと言う意志の強さでした。当事者の NUMO の参加を取り付け、賛否両論の話の

場を実現する為でしょう、進行をプロのファシリテーターに依頼し、質問を整理して進める手法は今後の進め方に参考になります。



インターネットの世界ではエコーチェンバー効果という現象があります。SNS で価値観の似た者同士が交流し、共感し合うことで、特定の意見や思想が増幅されて影響力をもつ現象です。上の図は⁵、保守的な人にもリベラルな人にもフェイクニュースを信じて拡散に寄与しがちなことを示しています。自分の思いに合致したニュースほど心地良い麻薬効果でしょうか。我々反対運動に携わる人間も心して注意しなければなりません。

終わり

⁵ E・メンツァー T・ヒルズ 「SNS がしょうもない情報で溢れるメカニズム」 2021.8 日経サイエンス